

子宮頸がん 予防ワクチンについて 知ってください

●子宮頸がんとは…？

子宮頸がんとは、子宮の頸部（子宮の出口に近い部分）にできるがんです。日本では毎年、約1.1万人の女性がかかる病気で、さらに毎年、約2,900人の女性が亡くなっています。

患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に約1,000人います。



●子宮頸がん予防ワクチンの接種について

日本では、小学校6年から高校1年相当の女の子を対象に、子宮頸がんの原因となるHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染を防ぐワクチンの接種を提供しています。

対象者は公費（自己負担なし）により接種を受けられます。

ワクチンの種類：サーバリックス・ガーダシル・シルガード

●子宮頸がん予防ワクチンのリスク

接種後には接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれですが、重い症状（重いアレルギー症状、神経系の症状）が起こることがあります。

＊接種後症状（重篤）の報告頻度

サーバリックスまたはガーダシル：1万人当たり約5人

シルガード：1万人あたり約3人

＊接種後の「多様な症状」の報告を受け、様々な調査研究が行われていますが、「ワクチン接種との因果関係がある」という証明はされていません。



●子宮頸がんワクチンの状況

世界保健機関（WHO）が接種を推奨しており、日本での接種者数は徐々に上昇しています。

●接種方法

対象の方には中学1年生の春ごろ、接種券をお送りしています。転入や紛失などで接種券がない場合は再発行ができますので、お問い合わせください。

ご予約は直接、協力医療機関にご連絡ください。豊田市・みよし市の協力医療機関以外で接種を希望される場合は、接種前に手続きが必要となりますので、お問い合わせください。

問い合わせ

みよし市保険健康課

TEL 0561-76-5880

FAX 0561-34-3388

メール hoken@city.aichi-miyoshi.lg.jp

厚生労働省
ホームページ



※接種済みの方にも配信しています。ご容赦ください。